

サービス産業動向調査利用研究会（第1回）議事概要

- 1 日 時 平成20年7月22日（火）13:30～15:50
- 2 場 所 総務省第2庁舎6階特別会議室
- 3 出席者 委 員：吉澤座長、西郷委員、宇南山委員、二上委員（内閣府）、肥後委員（日本銀行）、小出委員（統計センター）、土井委員（統計センター）
事務局：吉崎部長、羽瀧調査企画課調査官、清水経済統計課長
- 4 議 題
 - (1) サービス産業動向調査利用研究会の開催について
 - (2) 調査の概要について
 - (3) 標本設計について
 - (4) 集計計画について（案）
 - (5) 結果の推定方法について
 - (6) その他
- 5 議事概要（主な意見等）
 - ・ サービス産業動向調査が第3次産業のうちどの範囲をカバーしているかについては、データを見る上で重要。特異値、異常値について、特徴のある業種もある。
 - ・ 補定を行うときの層（インピュテーションクラス）と標本抽出のときの層が異なるときは、通常、補定の際にウェイト付けを行う。
 - ・ 統計センターとしては、回帰式による補定は作業が難しい。一番簡単なのは、コールドデック法。
 - ・ 補定方法については、統計センターにおける時間的制約や担当者の判断による部分があることを考慮する必要がある。
 - ・ 補定方法は目的によって決めるのではないか。母集団の母平均や母集団合計を推定することを目的とする場合と分布を推定することを目的とする場合で適用すべき方法は異なる。
 - ・ 季節変動については、時系列的モデルを入れる方法がある。ただし、データの蓄積が必要。
 - ・ 将来の2次利用も想定して、補定したデータであるか否かが判別できるようなデータ管理も検討してほしい。
 - ・ 動向調査ということで前月の情報があるため、それを使った補定ができるのではないか。動向調査ならではの補定があると思う。